

ハンナ 自己紹介、および宣伝文

2013年3月

ハンナ・マーメイド

日本のみなさんへ

オーストラリアの故郷の町で、わたしは、幼い年齢の頃から、自然や太平洋の海の生き物に対して、愛情と敬意を抱くようになりました。わたしが、海の生き物たちのあいだで、彼らと同じように泳いでみたいという夢を抱いたのは、子どもの頃のことでした。

わたしは、これまで間近から、海の不思議を目の当たりにし、小さなオキアミから大きなクジラまで、さまざまな海の生き物に出会ってきました。わたしは、日々、自身の身体と心の鍛錬を怠ることはありません。それは、海の不思議、海原の下に広がる美を楽しむためです。わたしたち人間の生命が、海と深い絆をもっていることを、わたしは知っています。また、以前日本を訪れたときから、海が、日本の歴史とアイデンティティに不可欠な要素となっていることも知っています。わたしは、自身のことを海の親善大使だと思っています。ですから、日本の方々が、太平洋の海とともに、健康的で、楽しい、今後とも持続可能な暮らしを送っておられる姿を見たいと思うのです。

わたしは、幼い頃に、太平洋で水遊びを始め、とうとう、テーブルクロスを材料にした、手作りの尾ヒレを使って泳ぐことができるようになりました。そして、何年も練習を重ねた結果、一度に最高で2分間、酸素なしに9メートルの深さまで潜っていられるようになったのです。わたしは、これまで何人もの著名な水中写真家と、海の中で撮影を行ってきました。また、シルク・ド・ソレイユ、オメガ、タタ・シューズ、ロード&テイラー、ピラボンと、また、その他のさまざまな企業とも、共同で作業をしてきました。

わたしは、日本を訪れ、日本の方々とお話し、日本人の心が本当に高潔で、素晴らしいものであることを知りました。わたしの自身の考え方、ライフスタイルは、すべての生命に対して敬意を抱きながら、健康的な暮らしを送るというものですが、これは、日本の文化の一部にもなっている仏教の教えと、何ら矛盾するところはないと思います。

仏教では、各人が、人生や暮らしのなかで、自身が適切だと感じたことを行ない、また発言すべきだとされています。また、仏陀の教えによると、わたしたち人間は、動物に無用な苦痛を与えることは慎むべきであり、わたしたちは、動物の生命を奪うことには関わり

がない職業を選ぶべきだとされています。わたしは、そのように生きようと努めてきました。ですから、食肉は口にしないのです。多くの人々が肉を口にするのは、生きるためだということは、理解しています。けれども、わたしたちは、動物に無用な苦痛を与えることや、種を絶滅の際に追い込むほど食べ物にすることがないように、動物を利用する必要があるでしょう。

天然資源を枯渇させることに比べれば、動物と共生することは、地域の経済にとって、より適切な選択となります。わたしたちは、そのことに気づいた多くの海辺の地域の方々とともに仕事をしてきました。小さな地域社会に収入をもたらしてくれる、ホーエル・ウォッチングの活動を後援するグループは、太平洋の全域にわたって、いくつも存在しています。また、わたしたちは、フィリピンで、小さな地域社会が、しばしば観光客にジンベイザメの写真撮影を勧めていることも知っています。

このように持続可能な活動を仕事にしてゆけば、わたしたちは、海辺に暮らし、今を生きる人々はもちろん、未来の何世代にもわたる人々のものでもある、海の恵みを受け取ることができるのです。

わたしの毎日の運動と食事は、次のようなものです。十分なストレッチと体操、数時間の水泳、果物と低脂肪の食品の摂取、ダンスとヨガの実践。ヨガのおかげで、わたしの身体が衰えることや、精神が鈍ることはありません。わたしは、すべての人々に、毎日運動を続け、定期的に医師の診断を受けることで、健康を維持するようにお勧めしておきたいと思います。

ハンナの日本におけるテレビ出演、新聞記事

ハンナ・マーメイドは、2012年12月に、日本テレビの番組、『世界の果てまでイッテQ!』で特集されました。

また、ハンナ・マーメイドは、2013年4月1日付け『東スポ』、および『大スポ』で、特集され、第一面に写真が掲載されました。

ハンナのその他の最近の出演

合衆国、ラスベガスのベラージオ・ホテルで行なわれた、シルク・ド・ソレイユ特別公演「ワン・ナイト・フォー・ワン・ドロップ」

フランス、カンヌ映画祭のVIPパーティー

日本国内専属代理店: 株式会社 **FRONTRUNNER/WINKING DRAGON**

WWW.WINKINGDRAGON.BIZ